

新潟県学校事務研究協議会第36回研究大会 アンケート集計・考察

新潟県学校事務研究協議会 総務部大会チーム

アンケート回答数 284 参加申込数 440 回収率 65%

Q1：特別講演についてお聞きします。

◆ 新学習指導要領の方向性について

	1 よく理解できた		2 おおむね理解できた		3 あまり理解できなかった		無回答	
回答数	124	43.7%	150	52.8%	7	2.5%	3	1.1%

◆ 特別講演をお聞きした感想はいかがでしたか？

- ・ 新学習指導要領の内容は事務職員にはあまり関係がないと思っていた。改訂に伴い先生方の指導資料(教材)も変化するため、他人ごとと思えない。事務職員も新学習指導要領について学ぶ必要がある。
- ・ 教育現場が変わっていく中、第三者的立場からどのようなことができるのだろうと考えました。常に自分のことでいっぱいはいっぱいですが、授業を見てみたりして、やれることを探したいと思った。
- ・ お話をお聞きし、教員が購入したい物品の意味、これからの授業方法のやり方の変化・勉強になりました。
- ・ 新学習指導要領と聞くとむずかしそうだと感じますが、内容も、周りの人と相談する時間も楽しくわかりやすかったです。
- ・ 視野を広く持ち、仕事に意欲を持って取組みたいです。子どもたちのもっと！や次はこうしたい！という気持ちを大事にアウトプットできる環境整備が大事だということがわかりました。
- ・ 学んだことをどのようにアウトプットさせるか、うまく活用させるかを取り組んだ授業が大切なのはわかった。財政面としては教材だったり、人材だったり、いろいろ手助けできそう。
- ・ 講師の先生がとてもお話が分かりやすく理解できました。今、学校は何を求められていて、どのような教育をしていくのか方向性が分かることで今後の事務も変わってくると思います。
- ・ 学習指導要領の改訂とともに、子どもたちの学びの姿が変化してきていることがよく分かった。学校事務の立場から積極的に参画したいと改めて思った。

<考察>

「具体例もあり聞き取りやすくとてもわかりやすかった」という声が大半であった。記述にもあるが「学習指導要領と聞くとむずかしい」「学校事務職員と関わりが少ない」と敬遠している人が多くいたとうかがえたが、新学習指導要領の方向性についての質問では9割以上の人が理解できたと回答している。新学習指導要領を理解し、子ども・教員との関わり方、授業に対する考え方が変わり、表題にある「授業づくりにかかわる学校事務職員」へ近づけたと考えられる。

◆ 特別講演を聞いて、明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。

- ・ 授業と財務をもっと結びつけなくてはと思いました。
- ・ 自分の学校の先生が学習指導要領改訂を受けて、どのような授業をしているのかがまず分かっていないので、みてみたいと思う。そして、環境整備など整えなければいけないところをそろえていきたいと思う。
- ・ 事務職員という立場から、子どもたちが今後必要な資質や能力を身につけられるように何をすれば良いか考え、行動していきたい。
- ・ グランドデザインの見つめ直しを働きかけてみようと思います。
- ・ 新しい教育への理解を深めて、今の授業にあった環境整備の支えになれるように仕事をしていきたいです。教育に必要な環境を整備する視点から財政管理をしていきたいです。(ただ頼まれた物を買うだけでなく…)
- ・ 話しあいのツールとして出てきたものについて、手法を理解し必要な教材を確認したい。同時に何が不要となりどこが削れるかを調べたい。

<考察>

教員が児童生徒にどんな力をつけさせたくて、どんな授業がしたいのかを理解する。予算面だけで切り捨てずに一緒に考え、授業に合わせた教材・環境整備を行うなど具体的な取組イメージができたと思う。学校事務職員の視点、専門性を生かし、今後新学習指導要領と学校事務職員が関わっていくことを期待していきたい。

Q2：参加された分科会・講座研修についてお聞きます。

◆ 参加された分科会・講座研修はどちらですか。また、内容はいかがでしたか。

	分科会 1		分科会2		分科会3		講座研修	
1 よく理解できた	41	50.0%	8	20.5%	75	80.6%	39	56.5%
2 おおむね理解できた	34	41.5%	28	71.8%	7	7.5%	22	31.9%
3 あまり理解できなかった	1	1.2%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	7.3%	2	5.1%	11	11.8%	8	11.6%
合計	82		39		93		69	

◆ Q2-① 分科会・講座研修に参加して、自分のこれまでの取組を振り返って、どのように感じましたか。

【分科会1】

- ・ 世代交代が進む中で、システムの標準化は、必須だと思います。上越市さんのようにシステム構築ができるとよいと思います。
- ・ 市内でシステム化を進めることの成果を改めて実感しました。
- ・ 今までは1人で動いていたことが多く共有できていなかったように感じた。もっと周り情報共有が必要だと思った。
- ・ 自分にできることを探することが大切だと感じた。また、支部全員の力や、市教委と連絡の調整の必要性を感じた。
- ・ 若い方々の発表でおどろきましたが、先輩たちから、今までの努力やとりくみを聞きとり、引き継いでいったということ、つちかっていくことの大切さを感じた。

<考察>

業務改善を進めていくなかでシステム等による業務の標準化は必須になってきている。また、記述にもあるように新採用、市外からの転入者の支援など、世代交代が進む上でも標準化の必要性が挙げられている。昨年に引き続き全県でのシステム統一等の標準化を求める声も多くあった。他支部と情報を共有することで各支部の今後の標準化の進め方・取組について考える良い機会となったと考えられる。

【分科会2】

- ・ 地域という目線で学校という施設を見ていなかった。
- ・ 教職だけではなく、もっと小規模校の強みを生かし、各学年の授業と活動を把握すること。地域の活動と並列的にとらえて関連性をさがしてみたりということが少なかったと感じました。
- ・ もともと地域が入って活動していたんだと自分の学校を振り返って思った。そこに自分の取り組みは入っていないので、これから手伝いができればいいのかなと思った。
- ・ 現任校の地域のかかえる問題を自分自身がよく知っていないということに気付いた。
- ・ 日々の業務を見つめ直すことで、案外、相方のニーズを改善、解決できる。シーズはたくさんあるのではないかと考えました。

<考察>

日々の業務に追われコミュニティスクールや地域に関する業務の意識がなくニーズとシーズを見落としていたという声が多くあった。ニーズ、シーズの認識をするためには地域の実状を熟知することが必要不可欠である。チーム学校の一員として学校事務職員の役割を考え、私たち新事研が目指す学校事務職員像の「地域とともに主体的に学校づくりを進める学校事務職員」へ近づいてもらいたい。

【分科会3】

- ・ 自分の学校で行える業務改善が、まだまだあると気づきました。
- ・ 目をつむってきたことを指摘されたような気がして身が引き締まるとともに、気づきを大事にこれから業務をしていきたいと感じた。
- ・ 「今までそうやってきたから、替えない方が楽」と思っていることがたくさんあることに気づかせてもらいました。
- ・ 当たり前となっていたやり方を見直してみたいと思いました。
- ・ 「個」で抱えるのではなく、何においても「組織」で取り組むことが大事なのだと気づかされた。
- ・ 今までは前任者から引き継いだ仕事の内容を当たり前に行っていましたが、ちょっとした気づきに対して、自分が変えていけることは積極的に変えていくことの大切さを感じました。

<考察>

「前任者のやり方をそのまま引き継いだ方が楽だから変えずにいた」、「多忙や環境を理由に『気づき』に気づいてもそのまま流していた」など自分を振り返る声が多くあった。「一歩踏み出し行動に移す勇氣、組織として動く大切さを感じた」という意見や、実践にあった「校内探検をさっそく実施したいという」前向きな意見が見られた。今回の実践発表が『気づき』の1つのきっかけとなる有意義な機会になったと考える。

【講座研修】

- ・ 昨年度までの事務の方がたててくれた配当通りに行くだけでしたが、今日の研修でその中身を少し理解できました。
- ・ 何も変わったことをせずに過ごしてきたんだなと感じました。グループワークで他校が取り組んでいることを聞いて、私も新しいことを始めてみようと思いました。
- ・ 市外の人と話して違う部分が多く分かったことや予算要望のやり方の違いや良いと思うやり方がみつきり良かったです。自分でどうしようと思うことを先輩に聞けて良かったです。
- ・ 特別講演に引き続き、学習指導要領や教育課程を理解することの大切さを強く感じました。
- ・ これまで自分は予算についてあまりよく分かっていませんでした。予算委員会などを通じて学校の職員全員で次年度の予算を考えないといけないと感じました。

<考察>

今年度は受講対象を採用1～3年目の学校事務職員とし、前年度より対象経験者年数を引き下げた。そのためか予算管理について「よくわからない」という声が多く見られた。しかし、今回の研修を受け「自校の予算を見直したい」という意見も多くあった。これは予算管理について理解できたと読み取れる。今後は特別講演で聞いた新学習指導要領とつなげて財務委員会等を活用して積極的に学校経営に参画してほしい。

◆ Q2-② 明日からどんなことに取り組んでみようと思いましたか。

- ・ 市内での統一化したシステム作りをさらに進めていきたい。 (分科会1)
- ・ 若い世代も校内において職務を発揮できるような体制づくりをしていく。 (分科会1)
- ・ 今ある資源をどう生かすか、考え、ニーズとシーズをからめていけたらいいなと思いました。 (分科会2)
- ・ 地域の防災設備、避難所としての学校の動きの確認と明確化シーズをコーディネートするために、まずシーズをたくさん探したい。 (分科会2)
- ・ 「学校探検」をして校内の様子を確認しようと思いました。 (分科会3)
- ・ 何か変えたいと思ったときは、自分ひとりですと断るのではなく、組織を有効活用していきたいと思った。 (分科会3)
- ・ 明日からは配当をもう一度見て、これからどのように使うか、来年にはどう配当するかをしっかりと、考えたいです。 (講座研修)
- ・ 学習指導要領の改訂等もあり、重点的に取組む教科も違ってくると思うので、自校の教育計画を確認し、それに見合った予算編成をしていきたい。 (講座研修)

<考察>

各分科会、講座研修に参加して理解できたと回答する人は9割近くいた。各分科会、講座研修で聞いた取組などを理解し、今後の自校での取組や自分自身のスキルアップにつながるヒントとなったようである。すべてに共通することは『個』で取り組むのではなく、『組織』として取り組んでいくこと。その大切さを再認識できた分科会、講座研修であったと感じる。学校経営担当職員として求められる積極的な参画につなげてほしい。来年度以降も充実した分科会、講座研修が継続・発展することを期待したい。

Q3 : 研究大会全般について、感想や意見をご記入ください。

- ・ 1日とても有意義な時間でした。知らなかったことをたくさん知ることができ、明日から取り組みそうなことがたくさん見つけられました。よかったです。
- ・ ゆったりとした日程でよかったと思う。今知りたい、知っておいたほうがよいと思われる内容だったと思う。
- ・ なかなか聞くことのできない特別講演などで学んだことを今後の業務に活かしていきたいです。
- ・ 今回の講話はとても入り込みやすく、時間があっという間に感じられるほど、分かりやすかったです。学習指導要領について、事務職員も理解が必要と言われていたのですが、なかなか配られた資料に目を通したところで、読み解けませんでした。今回の講話のように、要点をまとめていただけて教えていただく機会があるのはとても有り難いです。
- ・ 他の事務職員の方々が行っている実践大変参考になりました。
- ・ 良いお話をいただいているのに、プレゼンを使用されると全体照明が落ちてしまって、講師の方の表情などが見えずに残念ですね。

<考察>

今年度アンケートの回収率が65%とここ数年で一番高い数値となった。呼びかけを継続するとともに起因を解明し、今後さらにアンケート回収率を上げ、参加者の声を少しでも多く聞けるようにしていきたい。

複数の方からスムーズな大会運営だったと声をいただいた。SJK大会サポーターの活躍によりスムーズな大会運営につなげることができたと感じている。研究大会申込段階でのSJK大会サポーターの応募は少なかったが、運営部員・支部長より声をかけてもらい昨年度と同等のSJK大会サポーターが集まった。今後は募集方法等の検討や、サポーターの活躍や体験談を周知することで研究大会申込段階で多くの会員からSJK大会サポーターへ応募してもらえるよう工夫したい。

昨年度に引き続き月末月曜日の大会開催になったが次年度は月末水曜日の開催である。アンケートに開催時間や開会式の持ち方などの意見をいただいたが、運営上必要な時間のため、連絡を行うタイミングや連絡内容の精選等、会員が無駄な時間と感じることがないように今後の検討課題とする。設備面では今年度もスノーホールのマイクが聞きづらいとの意見があがっていた。会場準備の際に入念な確認が必要である。また、プロジェクターを使用するため照明を暗くしていたが、「メモがとりづらい」、「講師の表情が分からない」との意見があがってきた。会場準備の際、参加者側からの視点も忘れず入念に確認をし、より良い環境での研究大会を目指したい。

全体的に肯定的な意見が多く、特別講演の田村先生の講話は、「具体例もあり聞き取りやすくとてもわかりやすかった」という好評の声が大半であった。新学習指導要領改訂に伴う今後の学校事務職員への期待、あり方を確認できた研究大会となった。また、各分科会、講座研修では実践方法などのヒントを得て、明日からの業務に生かしていきたいという前向きな意見が見られた。研究大会についても自分たちが主催している研究大会であるということの意識をもち、SJK大会サポーターでの参加や分科会の発表などさらなる積極的な参画を期待している。今後もニーズに合わせ、会員一人一人がより満足できる研究大会を運営していきたいと考える。

- * アンケート及び大会申込み時に寄せられた皆様の声を受け止めながら、次回大会、そして今後の研修に生かしていきたいと思います。大会への多くのご参加、アンケートのご協力に感謝申し上げます。